

## 第 26 回甲状腺検査評価部会議題に関する意見等

### 1 これまでの解析等に関する意見や質問

- ① 症例数が増えてきたため、今後は、生存時間解析等で用いられる Kaplan-Meier 法に加え、交絡因子を調整できる Cox 回帰解析や、感度解析として症例に対する対照数を変えた解析を行ってはどうか。
- ② 先行検査での生検率の高さがバイアスになっているかどうかを見るため、本格検査症例のみの症例対照研究を行ってはどうか。

### 2 その他（追加の御意見等）

- ① 原発事故から 15 年が経過し、甲状腺検査対象者の高年齢化が進んでいる。震災時の年齢階級別の累積発見率を見た結果、年齢が高くなるほど甲状腺がんの累積発見率が高くなる傾向がみられた。このため、放射線感受性が高く、かつ甲状腺被ばく線量が相対的に高かった事故時乳幼児世代の累積発見率の推移を注意深く見る必要がある。部会のまとめを作成するにあたっては、これら事故時乳幼児世代の結果を含めた解析となることを希望する。